基礎・基本の習得とその活用を図る指導法の工夫

～見通し・振り返りによる『ガイダンス的授業』を目指して～

【白岡町教育委員会】

１　はじめに

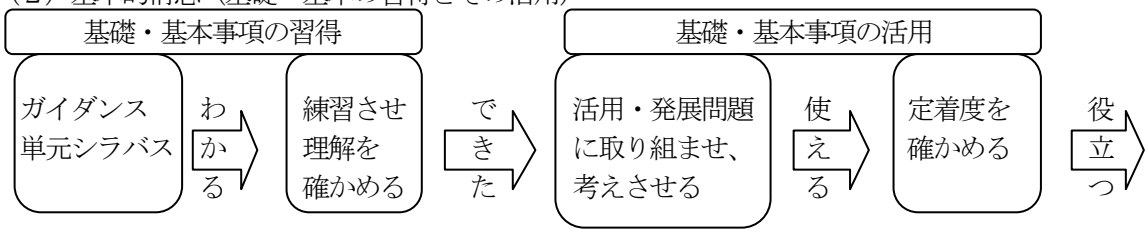
本校では、基礎的・基本的な知識・技能、思考力・判断力・表現力、学習意欲という「確かな学力」を確実にはぐくむために、生徒が授業の導入段階で学習に見通しを確実に持ち、展開段階で筋道を立てて考えたり、観察・実験したり、まとめの段階で学習活動・内容を振り返る学習過程を重視した授業（ガイダンス的授業）を実施することを研究の課題として、上述の研究主題を設定した。

２　研究の概要

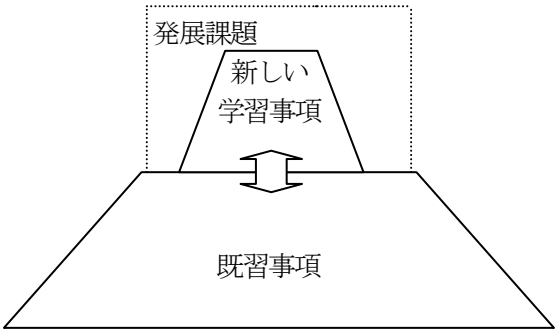
（１）ガイダンス的授業モデル

学習活動の単位となる単元全体にわたって、一連の学習過程が明確になるように指導過程を構想する。重点的に指導すべき内容は、単元をとおして繰り返し位置づける。また、学習過程が生徒にとって課題解決の過程になるよう導入時に学習の見通しを立てたり、学習したことを振り返ったりする場を設定する。

（２）基本的構想（基礎・基本の習得とその活用）



（３）１単位授業時間モデル



授業の流れ
- 学習レディネスの測定
- ガイダンス
- 単元シラバス
- 学習活動
- 見通し振り返り
- 理解の確認
- 評価活動

（４）１単位授業時間モデルの具体

授業前の生徒　学習レディネスの測定…「あることを学習するとき、これを習得するために必要な条件が用意され、準備されている状態」を測定する。
例：事前アンケート、確認テスト、面談等

↓

学習ガイダンス…単元シラバスの活用　単元全体を俯瞰させる…「今、自分はどの段階にいるか」

↓

見通しを持つ学習活動　基礎・基本事項を習得させる → 基礎・基本事項を活用させ定着させる

↓

振り返る：授業後の生徒　到達度テスト、自己評価・相互評価、観察・面談等